

他の自治体の取り組み例

この内容は、平成 30 年 9 月 27 日に開催された第 1 回生きることの包括的支援研修の復命となります。

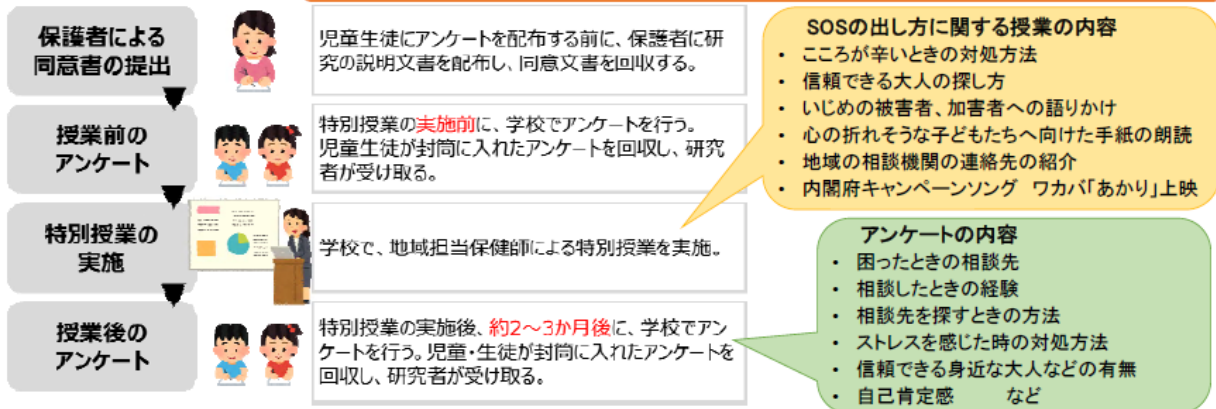
	東京都足立区モデル H26～ (1 回完結式外部講師活用型)	東京都モデル H30.2 (1 回完結式チーム・ティーチング DVD 活用型)	北海道教育大学モデル H28～ (1 回完結式教師主導絵本活用型)
対象	小学校、中学校	小学校、中学校、高等学校、特別支援学校	中学校
実施者	地区担当保健師	教師 ※教諭、養護教諭、地区保健師がチームを組むことを推奨	教師
目的	・「自分を大切にしよう」「信頼できる大人に相談しよう」という簡潔なメッセージを児童生徒に伝えること	・ストレスへの対処方法等について理解できること、危機的な状況に対応するために大人に SOS が出せること。 ・周囲に心の危機に陥っている友人等がいた場合の対応を学ぶこと。	・困ったとき苦しい時に信頼できる人に SOS を発信する方法を知る。 ・自尊感情は、周りの人たちとの共有体験によって培われることを知る。
教材	パワーポイント 手紙(「かけっこでいつもビリの君へ」「両親の不仲に心を痛めている君へ」など) DVD(いのち支えるプロジェクトのキャンペーンソングを視聴)	DVD(初等、中等、高等編) 学習指導案 ワークシート 活用ガイド	DVD「つみきの家(絵本)」 パワーポイント
構成	45～50 分 1 導入 2 パワーポイントでのプレゼン(心が苦しかったときの対処方法、SOS の具体的な出し方等) 3 手紙の朗読 4 相談カードなどの紹介 5 DVD 視聴	50 分 1 題材を知る 2 DVD(前半)を視聴 3 つらい気持ちになった時にどのような対処をしているか伝え合う。(グループワーク) 4 DVD(後半)を視聴 5 教師、SC、保健師等の話 6 感想をワークシートに記入	45～50 分 1 イントロダクション(命の大切さ) 2 DVD 視聴:自分の共有体験を振り返ってみよう 3 「こころの調子」について考えよう 4 アンケート記入
特徴	・外部講師と学校側担当者が事前打ち合わせを行う。		・ホームページ上で命の教育や SOS の出し方教育に関する学習ができる仕組みあり。
	・自殺予防を強調する要素は省いているため、授業の実施にあたり保護者への同意を求める必要がない。		
効果検証結果	数か月後にアンケート実施。授業前と比べて「気軽に相談できる」者が増加。 (詳細は、裏を参照)		質問紙(自尊感情、教育の理解度)による授業前後の評価。SOS の出し方についての理解度が向上。

児童生徒のSOSの出し方に関する教育～教育効果を検証する～ 自殺総合対策推進センターと東京都足立区の共同研究(2017年～)

目的： 児童生徒を対象とした東京都足立区モデルの「SOSの出し方に関する教育」を受けることにより、児童生徒が適切に周囲大人にSOSを出すことができるようになるかを検証する。

効果検証の実施の流れ

対象： 足立区においてSOSの出し方に関する授業を行う区立小学校5・6年生、中学校1～3年生



足立区において実施された一回完結式外部講師活用型の授業効果を検証したところ、授業前と比べ、気軽に相談できる者が増加する等の効果が明らかになった。今後、SOSの出し方に関する教育を全国に普及させるにあたり、科学的根拠に基づき教育効果の検証された授業モデル・教材等を参考とすることが望まれる。